

## 第13回 医療関係団体新年互礼会

と き 平成30年1月6日(土) 17:00～19:00

ところ ホテルニュータナカ2階「平安の間」

[報告: 広報委員 津永 長門]

平成30年1月6日、山口県の15の医療関係団体による新年互礼会が山口市で行われた。仕事を早めに切り上げて開宴にギリギリ間に合い、宴会場の扉を開け、まず驚いたことは、平安の間にぎっしりとテーブルが配置され、約400人の出席者が着席している光景だった。昨年までは立食形式で、開会の辞から来賓の挨拶、乾杯まで約1時間、じっと立ち続けているのは正

直に言うと苦行であった。今年は、タイムスケジュールは変わらないが、座っているお陰で、来賓の方々のご挨拶をじっくり拝聴できた。

河村康明 県医師会長は年頭のご挨拶の中で、この互礼会が年々盛んになっていると紹介されたが、来賓の方々も、三師会から横倉義武 日本医師会長、堀 憲郎 日本歯科医師会長、田尻泰典 日本薬剤師会副会長、国会議員の先生方も河村建夫 衆議院議員を筆頭に9名出席され、村岡嗣政 県知事、山口県及び議会関係者、市町の首長など、豪勢な顔ぶれであった。

2018年度のトリプル改定で、診療報酬本体が0.55%のプラス改定となったことと、昨年10月の総選挙で自民・公明の与党が大勝したことで、来賓の方々のご挨拶も何か余裕のある挨拶であったように思う。印象に残ったのは、北村経夫 参議院議員が産経新聞社時代の後輩に当たる河合雅司氏の『未来の年表』(講談社現在新書)を紹介されたことであった。少子高齢社会の日本の未来を具体的に予測した本書は、これからの日本社会



を考えるうえでの必読書であろう。

乾杯のご発声での江里健輔 山口県立大学理事長のお話は、毎年傾聴に値するが、今年は、週刊誌の新聞広告はネガティブなタイトルにしないと売れない、と紹介された。そして、医療人はポジティブ思考でないといけないと説かれた。確かに、自分の病気に関してネガティブに接せられたら、患者は堪らないだろう。「私、失敗しないので。」と言ってみたい。

この後、歓談となったが、昨年と比べ疲労感がない分、多くの方々と元気に新年のご挨拶を交すことができた。昔、私が家庭教師をしていた教え子が立派な歯科医師になって三十数年ぶりに再会するサプライズもあり、あっという間に時間が過ぎ、岡 正朗 山口大学学長の万歳三唱、中原靖明 山口県薬剤師会長の閉会の辞で、和やかにつつがなく、会がお開きとなった。